

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571200306		
法人名	社会福祉法人 最勝会		
事業所名	グループホームあそか		
所在地	山口県柳井市日積3213		
自己評価作成日	平成23年2月24日	評価結果市町受理日	平成23年6月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひとり一人の個性を大切にしながらその人らしい生活が出来るよう考えています。山々に囲まれた自然あふれる環境の中で、その人らしく心豊かな時間と場所が過ごせる様な空間を作っています。今までに培ってこられた経験を十分に発揮できるよう支援し生き生きと過ごせるようにしています。家族や地域の方とのつながりを大切に、穏やかな生活が出来るよう考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の併設施設の連携や支援があり、利用者は併設施設で行われるお茶会や喫茶、大正琴、ピアノ等のボランティアの訪問などで地域の人との交流を楽しまれています。職員は明るく穏やかで、職員間のチームワークが良く、利用者職員、利用者同士の関係が和やかで、利用者は事業所での日々を笑顔に包まれてゆったりと過ごしておられます。地域との防災連携体制があり、消防署に通報した緊急連絡は地域消防団長にメールで送信され、連携できる体制が築かれており、運営推進会議でも防災について話し合いが行われるなど、地域との連携を深めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し実践に取り組んでいる	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念をつくり、毎朝の朝礼で理念を唱和し、ケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行なわれる行事には積極的に参加し楽しみながら交流を行っている	法人が自治会に加入しており、地域のフェスタ、運動会、どんど焼き、ふれあいまつり等行事に参加している。法人内で行われるビハーラ、喫茶コーナー、大正琴等にも参加し、地域の人と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあい祭りや推進会議などでお互いに学んでいる		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員一人ひとりが自己評価を行っている 職員同士が話し合い改善を行っている	評価の意義を理解して、全員が自己評価を行い、ミーティング等で話し合い、管理者が取りまとめている。共通理解に向けた話し合いや昨年の課題についての改善に向けた検討をしている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度利用者様の状況の報告や訓練などを行い意見や要望を受けてサービスに生かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況やサービスの取り組み、自己評価や外部評価の実際等を報告し、意見交換を行い、意見をサービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	助言や指示、指導をしてもらっている	運営推進会議のほか、市担当者とサービスの取り組みについて相談しながら協力関係を築くように努めている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵の施錠はせず開放している 職員の見守りによりより良いケアが出来るよう努めている	マニュアルを作成しミーティングや日常業務の中で話し合い、身体拘束について職員全員が理解して拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会はないが、防止に努めている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員で学ぶ機会を持ってはいない		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に説明を行い十分に納得、理解をしてもらっている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会などに来られた時には、気軽に意見や要望を聞けるよう努力している	運営推進会議や毎月の支払に来所された時、面会等で家族から意見や要望を聞いている。受付担当者、第三者委員、外部機関を明示し、苦情処理の手続きを定めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行い、意見や提案を聞き反映させている	法人の朝礼や事業所の朝礼時、毎月のミーティングで意見や提案を聞き、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に積極的に参加できるように働きかけ、個人の知識が広がるように努めている	毎月のミーティングでケアについての話し合いや法人内の研修に参加している。研修計画を作成し、職員研修について検討を行っているが、実施されていない。	・研修の充実

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会に参加し、研修や交流を行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を傾聴し、思いに向き合い安心して生活出来るよう暖かく受け止めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合う機会を持ち、要望など聞き信頼関係が持てるように努めている 状況に応じて連絡、報告をしている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と話し合い対応に努めている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支えながら生活していける様支援している		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	良い関係が持てるよう日頃の状況も話し、相談しながら支援している		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や面会が気軽に出来るよう支援している	家族や友人、知人の面会があり、馴染みの人との交流や自宅への一時帰宅、外泊など、馴染みの人や場所との関係がなくならないよう支援している。同一敷地内の併設施設で行われる喫茶や運動会、法要、訪問美容など新たな馴染みの関係がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様が穏やかに過ごせるよう、職員が間に入り配慮をしている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の見舞いなど出会った時はフォローをしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの話をゆっくりと聞き思いを受け止め安心して生活が送れるように把握、努力をしている 家族にも本人の思いを伝え相談をしている	日常生活の中で、一人ひとりの話をゆっくり聞き、受け止め、意向の把握に努めている。困難な場合は家族に相談し、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中や家族との交流時に話を聞いている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合わせて支援を行っている ケア記録や連絡ノート、引継ぎで状態を把握している		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い職員間で話し合い、家族からも要望を聞いた上で介護計画を作成している	本人や家族、主治医の意見を参考にして、カンファレンスで話し合い、意見や要望を反映させた介護計画を作成している。6ヶ月毎にモニタリングをしながら介護計画の見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に小さな気づきも記入している 職員間でも引継ぎで情報を共有している		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望を聞きながら、家族とも相談をし支援している		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々と交流する機会があれば進んで参加し、交流を深めている		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状に応じて家族とも相談をし、希望を聞きながら適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が主治医となっている利用者の他のかかりつけ医や他科受診の場合も適切に受診でできるよう支援している。併設病院の看護師が健康管理の中心となり、緊急時や健康不安に対応しており、必要に応じ看護師を通し、往診にも対応している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	細かい状況も伝え相談をし指示をもらっている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と連絡を取り合っている 入院時にはお見舞いに行き、安心して帰って来られるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは現状や今後について機会があるたびに話をしている	重度化や終末期について、本人や家族、かかりつけ医と話し合い、事業所で出来ることを説明しながら方針を共有している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	一人ひとりの心身の状態をよく把握し事故が起らないように日々努めている 看護婦から指導を受けたり、マニュアルを確認している	利用者一人ひとりについて想定される事故や、ヒヤリはつと・事故報告書から利用者一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定避難訓練を行い緊急時に対応が出来るようにしている 他施設や地域の方々とも協力体制を築いている	災害時に日中、夜間を問わず利用者が避難出来る訓練を行い、全職員が身につけるとともに、火災等の緊急時の消防署へのオンライン通報システムは地域消防団へもメール送信され、地域との防災対策の協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりその方に合った声かけをし状況をみながら対応をしている	プライバシーについて職員は良く理解しており、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとり話を聞き思いを受け止める努力をしている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースに合わせて過ごせるよう出来る限り支援出来る様努めている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ボランティアによる散髪を利用している 自分で好きな服が楽しめて選べるように支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛付、片付けなどその方に合わせ出来る事を支援している 楽しく食事が出来るような雰囲気づくりを心がけている	材料は法人から配食され、三食とも事業所で、利用者と職員と一緒に調理、盛り付け、食事、片付けをしている。法人の管理栄養士が献立作成をしている。利用者の希望を採り入れて、お好み焼き、鍋、すき焼き等家庭的な食事を楽しむ工夫をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの病気や状態に応じた量や形状で食事出来る様な支援をしている 食事や水分量は個々に毎食記録している		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じた歯磨きやうがいなど、一緒に介助しながら支援している		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンやタイミングを把握しトイレ誘導をしている 声かけや介助により、布パンツで過ごせるよう支援をしている	一人ひとりの排泄パターンやタイミングを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	テレビ体操や歩行訓練など運動をすることで自然に排便が出来るよう支援している 牛乳や水分補給に気をつけ状態を見ながら看護婦に相談をしている		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望を聞きながら支援を行っている	入浴は毎日13時30分から17時まで実施しており、利用者はほとんど毎日入浴し、入浴を楽しんでいる。一人ひとりに十分時間を取り、希望に応じた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンや状況などを把握し安心して休んでもらえるよう支援をしている		
48		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつも確認出来る場所に処方箋を置き職員間で把握、症状の変化など注意している口に運ぶなどその方に合わせた支援をしている		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味などを考慮し、個々の持っている力を生かせるよう支援している	編み物や折り紙、歌、料理、洗濯物たたみ、掃除、園芸、法人で行う月2回の大正琴、喫茶コーナー、ビハーラ等一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	暖かい日には外に出かけゆつくりと外の景色や花を楽しみながら散歩している 買い物に行くなど気分転換にドライブに行っている	一人ひとりのその日の希望で散歩に出たり、法人が行うビハーラ、喫茶コーナー、大正琴等出かける支援に努めている。外食、ドライブ、花見等家族や地域の人々と出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人でお金を使うことは難しく、希望を聞きながら必要に応じて支援をしている		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば取り次いでいる 携帯電話を持っている方もおられる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光の加減や温度調節はこまめに行っている 季節感溢れる飾りや花など飾り空間づくりに努めている 大きく物を動かして混乱を招かないようにしている	玄関前の花壇には職員と利用者で植え付けたチューリップが美しく咲いている。廊下は広く、リビングは天井が高く、明るく、窓から外の景色が眺められ、廊下は広く、キッチンからの調理の匂いが感じられ、生活感や季節感を採り入れて、居心地良く過ごせるように工夫をしている。不快な刺激もなく、温度や換気に配慮している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地良く過ごせるよう一人ひとりの気持ちをくみ取り配慮している		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきてもらい、個別に合わせて居心地良く過ごせるようにしている	洗面所、広い収納庫、ベットが備え付けてあり、机や椅子、テレビ、写真、ぬいぐるみ、仏壇など本人の好みの物が持ち込まれ、居心地良く生活できるように工夫されている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印になるものを付けて分かりやすいようにしている 手すりを使い安全に安心して歩行が出来るようにしている		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム あそか

作成日: 平成 23年 2月 24日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	環境的には近くに畑や田んぼがあって季節を感じながら過ごせてはいるが、思うような成果は得られていない。 一から利用者様と職員が一つになり造っていきたい。	お米や野菜を作り生き生きと過ごしてもらう	お米や野菜を種から蒔き、日々の成長と共にかかわりを持って楽しみながら育てていく	1年
2	47	日中、夜間における不穏時の対応の仕方	安心して落ち着いて過ごしてもらう	その方に寄り添い話をゆっくりと聞く。 散歩やドライブなど気分転換をしてもらう。 そばに一緒にいて見守る。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。